

燃料油脂新聞

発行所
 燃料油脂新聞社
 〒103-0026
 東京都中央区日本橋兜町8-8
 編集東京03(6667)1031
 販売東京03(6667)1042
 札幌・仙台・関東・信越・
 支店 東京・静岡・名古屋・大阪
 広島・四国・福岡
 5ヵ月34,560円(税込)
www.nenryo.co.jp
 ©燃料油脂新聞社2026

トナー、廃食油を再利用 新アス添加剤開発 使用済みトナー、廃食油を再利用

道路強化向上資源循環に挑戦

富士ユナイテッドホールディングスグループの富士興産と環境開発工業などは、従来リサイクル方法が限られていた複写機の使用済みトナーが先行導入されるため、環境整備と石油販売業界の支援要望をまとめる。

また2027年度以降の軽油引取税「特別徴収義務者交付金」について、物価上昇や人件費の高騰を踏まえた交付率の引き上げに向けた情報収集と対策を検討する。バイオディーゼル燃料にかかる軽油引取税の免税措置の創設を目指す活動を推進する考えも盛り込んでいる。

トナーと廃食油リサイクルの副産物から、道路の強度を高めるアスファルト添加剤を開発した。5月中に本格的な生産体制を整え、将来的には全国展開も見込める。

富士興産と、北海道で複写機などのリサイクル事業を手がける環境開発工業が2022年にグループ化したことが開発につながった。

添加剤は「MICH INARU」(みちなる)の名称で展開する。「道」と「未知」をかけ、道路を起点に新たな資源循環に挑戦する意味を込めた。

環境開発工業が添加剤を製造・パッケージングし、富士興産がアスファルト添加剤の新商材として販売する。当面は事業にも参画している東亜道路工業(東京都港区)向けに供給する。

添加剤の開発・供給事業には富士ユナイテッドグループの2社に加え、東亜道路工業、北海道イシダ(札幌市白石区)、白老油脂(北海道白老町)、リコー(東京都大田区)、エトリア(横浜市西区)の計7社が参画。環境開発工業はリコーの北海道内の複写機リサイクルを請け負うほか、富士興産は東亜道路工業とアスファルトの取

引があるなど、それぞれの専門分野で強みをもつ各社のつながりや連携が開発を後押しした。

添加剤の実証実験では、道路の「わだち掘れ耐性」を示す「動的

安定度」が0%添加で500回/リットル程度のところ、標準量の1%添加で2400回/リットルを超え記録。交通量の多い重交通路線などに使われる「ポリマー改質アスファルトII型」の基準値1500回/リットルを大きく上回り、道路の強度向上に貢献する。顆粒状のためアスファルトにも添加しやすいという。

また廃食油リサイクルの副産物は、北海道のコンビエンスストアを巡っては、2022年までは製鋼原料として再利用(マテリアルリサイクル)されてきた。だが現在は粉じん爆発のリスクなど取り扱いが難しいことから、燃やして熱を利用する「熱回収」(サーマルリサイクル)による処理が中心になっているという。

富士ユナイテッドHDグループ2社と北海道イシダ、東亜道路工業は3月11日に製造技術に関する特許を出願している。

アチエン・セイコーマートを展開するセコマグループの白老油脂が供給する。同社はセイコーマートの店内調理で使用した廃食油を回収し、バイオ燃料(BDF)を製造している。